

阪南港の現況

- ◆ 阪南港は、大阪湾東部のほぼ中央に位置し、岸和田市・貝塚市・泉北郡忠岡町にまたがる港湾で、昭和43年に岸和田港、貝塚港及び忠岡港を統合し、重要港湾に指定された。
- ◆ 昭和40年代の木材コンビナートの建設を契機に府下有数の木材産業団地として、原木輸入の増大に対応してきた。現在では堺泉北港と合わせて日本一の合板輸入の取扱量を誇るなど、大阪の経済・産業活動を支えている。
- ◆ 立地優遇策等の創設により臨海部への企業立地が進展している。
- ◆ 浚渫土を活用した人工干潟の整備など自然環境の創造を進めている。

阪南港港湾計画（目標年次：平成20年代後半）

～地域の活力、憩い、安心を生み出す‘阪南港’～

計画改訂の背景と要請

- ◆ 阪南港においては、関西国際空港に近接し、背後に良好な広域交通アクセスを有し、また大阪湾の最南部に位置する重要港湾という立地条件を活かし、企業の貨物需要に的確に対応し、南大阪地域の物流拠点として、より一層の物流の効率化を図るとともに、旅客需要への対応が必要である。
- ◆ 大阪湾の環境再生を目指した「大阪湾再生行動計画」が策定されるなど、潮流等を利用した大阪湾の水質改善や自然環境の創造による生物の生息空間の形成、豊かで快適な海辺環境の創造が求められている。
- ◆ 海との触れ合いへのニーズに対応し、憩い空間としての水際線の開放を図るとともに、みなとのにぎわいをより一層高めるため、臨海部に立地する交流施設の連携を図ることが必要である。
- ◆ 地震など災害時に地域住民の生活物資等を輸送するため、防災機能を有した港湾空間の早期整備が求められている。

基本方針

背後圏の港湾物流・旅客需要に対応した物流機能の強化とともに、陸域部と海域部が連携した自然環境の創造や一層の水質改善、人々が憩い海と触れ合う水際線の整備によるみなとの魅力向上、既設施設の活用による旅客船埠頭の機能強化、耐震性の高い港湾施設の整備による地域の防災機能の向上を図る。

◆ 施策方向

物流

■ 南大阪地域の物流・旅客需要への対応とモーダルシフトの推進

環境

■ 親水・生物生息空間の創出、水質浄化機能の向上

交流

■ 賑わい拠点を連携する遊覧ネットワークの構築

安全

■ 災害時の背後圏への緊急物資等の輸送拠点

◆ 施設計画

■ 阪南4区 フェリー埠頭（既存岸壁の活用）
■ 阪南2区 外内貿岸壁及び保管用地

■ 阪南1・2区等 干潟、礫浜等

■ 岸和田旧港 旅客船埠頭

■ 阪南2区 耐震強化岸壁

港湾の能力

■ 目標年次における取扱貨物量、船舶乗降旅客数

取扱貨物量
1,210万トン

外貿
150万トン

内貿
1,060万トン

うちフェリー720万トン

船舶乗降旅客数
10万人